

進行阻止に関する免疫・遺伝・病態生化学的研究

—ま と め—

北 川 照 男

日本大学医学部小児科

堺薫班員はIgA腎症の免疫遺伝学的研究を行い、また堺秀八班員はIgA腎症の発症に遺伝性の因子の関与が疑われていることから、本症患者とその家族においてIgAスイッチ遺伝子の異常を検討し、IgA特異的スイッチT細胞が増加していることを明かにした。笹月班員は腎炎を惹起する溶連菌抗原に対する免疫応答性がHLA-DQと密接な関係のあることを明かにし、遺伝グループは各種腎症の発症に関与する遺伝的背景を詳細に検討した。

鈴木班員はウイルスを用いてヒトのIgA腎症に類似する実験的腎炎モデルの作成に成功し、吉川班員は小児期発症IgA腎症の予後に関与する諸因子を解析し報告した。吉岡班員は糸球体腎炎におけるI型コラーゲンの糸球体内分布を検索し、服部班員は巣状糸球体硬化における各種コラーゲンの関与を検討し報告した。重松班員は小児糸球体基底膜における糸球体基底膜陰性荷電性の変化について研究し、木原班員はAlport症候群の糸球体基底膜の断裂と腎機能の低下との関連を研究し密接な関係を有することを明かにした。以上のように病理病態グループは小児の糸球体疾患の進行因子と基底膜病変やコラーゲンとの関係を明かにすると共に、実験的腎炎による研

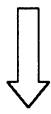
究を行い興味ある成績を収めた。

免疫・生化学グループの北川班員は特発性ネフローゼに対するシクロスポリンの効果とIL-2産生の抑制効果とがよく並行することを明かにし、藪田班員はステロイドの効果と末梢血単核球亜型との間に密接な関係のある事を明かにした。また清水班員は小児腎疾患の進行に関する免疫学的研究を行い、香坂班員はC₄およびDR・DQ遺伝子の多型性とIgA腎炎や紫斑病性腎炎の発症との関係を研究し、奥村班員は実験的腎炎の発症やその進行と細胞性免疫との関係を明かにした。また本田班員は腎炎の発症における糸球体基底膜におけるin situ immuno complex形成とC₃の動態を研究した。遠藤班員はアミノヌクレオシド腎症の発症における活性酸素の役割に関する研究から単離糸球体における活性酸素産生に及ぼすアデノシン及びそのアナログの抑制効果を研究し、武越班員は遺伝的に肝腎症候群を発症するラットを見出して若干の研究を行い報告した。以上のように本グループは糸球体疾患の発症と進展に及ぼす免疫学および生化学的諸因子について研究し、興味ある知見を収めた。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



進行阻止に関する免疫・遺伝・病態生化学的研究

—まとめ—

北川照男

日本大学医学部小児科

堺薫班員は IgA 腎症の免疫遺伝学的研究を行い、また堺秀人班員は IgA 腎症の発症に遺伝性の因子の関与が疑われていることから、本症患者とその家族において IgA スイッチ遺伝子の異常を検討し、IgA 特異的スイッチ T 細胞が増加していることを明かにした。笹月班員は腎炎を惹起する溶連菌抗原に対する免疫応答性が HLA-DQ と密接な関係のあることを明かにし、遺伝グループは各種腎症の発症に関与する遺伝的背景を詳細に検討した。鈴木班員はウイルスを用いてヒトの IgA 腎症に類似する実験的腎炎モデルの作成に成功し、吉川班員は小児期発症 IgA 腎症の予後に関与する諸因子を解析し報告した。吉岡班員は糸球体腎炎における I 型コラーゲンの糸球体内分布を検索し、服部班員は巣状糸球体硬化における各種コラーゲンの関与を検討し報告した。重松班員は小児糸球体基底膜における糸球体基底膜陰性荷電性の変化について研究し、木原班員は Alport 症候群の糸球体基底膜の断裂と腎機能の低下との関連を研究し密接な関係を有することを明かにした。以上のように病理病態グループは小児の糸球体疾患の進行因子と基底膜病変やコラーゲンとの関係を明かにすると共に、実験的腎炎による研究を行い興味ある成績を収めた。

免疫・生化学グループの北川班員は特発性ネフローゼに対するシクロスポリンの効果と IL-2 産生の抑制効果とがよく並行することを明かにし、藪田班員はステロイドの効果と末梢血単核球亜型との間に密接な関係のある事を明かにした。また清水班員は小児腎疾患の進行に関する免疫学的研究を行い、香坂班員は C4 および DR・DQ 遺伝子の多型性と IgA 腎炎や紫斑病性腎炎の発症との関係を研究し、奥村班員は実験的腎炎の発症やその進行と細胞性免疫との関係を明かにした。また本田班員は腎炎の発症における糸球体基底膜における in situ immune complex 形成と C3 の動態を研究した。遠藤班員はアミノヌクレオシド腎症の発症における活性酸素の役割に関する研究から単離糸球体における活性酸素産生に及ぼすアデノシン及びそのアナログの抑制効果を研究し、武越班員は遺伝的に肝腎症候群を発症するラットを見出して若干の研究を行い報告した。以上のように本グループは糸球体疾患の発症と進展に及ぼす免疫学および生化学的諸因子について研究し、興味ある知見を収めた。